

## 3月例会 『星めぐりの町』

## 小林稔侍の映画初主演作

## 例会のお知らせ

■名称／第101回例会『星めぐりの町』

■日時／2019年3月13日(水)

①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■タイトル／星めぐりの町

■監督／黒土三男

■出演／小林稔侍、壇蜜、荒井陽太、神戸浩、

佐津川愛美、石田卓也、小林健、小林千晴、六平直政、平田満、高島礼子

■データ／2018年、日本、1時間47分

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■作品・ストーリー／名優小林稔侍の映画初主演作。

早くに妻を亡くし、娘の志保と2人で暮らす島田勇作(小林稔侍)。豆腐屋を営む勇作は毎朝、手間と時間をかけて作った豆腐を近所の主婦や料理屋に届ける生活を続けていた。ある日、勇作のもとに亡き妻の遠縁にあたる少年・政美がやって来る。東日本大震災での津波により家族全員を失い、心に傷を負った政美を勇作はただ

静かに見守り続け、政美は自然に根ざした勇作との暮らしから少しずつ心を再生させていった。そんなある日、勇作が配達に出ている最中、町を大きな揺れが襲った。1人で留守番をしていた政美は震災の恐怖がよみがえり、忽然と姿を消してしまう。



## 第100回例会を終えて

1月26日に第100回例会を行いました。16年間のあゆみとして、上映した映画チラシを並べ、シネマクラブ立ち上げの中心メンバーだった亡き岡本健一郎さんの病床での「映画を語る」ドキュメンタリー(池谷監督)も上映しました。会員のみなさんと続けてきたことが朝日新聞に掲載に掲載され、13名の新入会員が増えました。また、例会当日神戸新聞の記者の方が来られ、記事にしてください、新たに5名の入会希望者が。「こんなサークルがあるなんていままでも知らなかった」と。新聞記事のもつ影響にも驚きましたが、映画を楽しみたい方が私たちの他にもたくさんいるんだと知り、映画のもつ魅力が、人生のちょっぴり片隅にあることにうれしさを感じました。まだまだ運営は厳しいけれど、これからもご一緒に映画を楽しみましょう。(和)

## 私の映画KAN

「沖縄スパイ戦史」(三上智恵監督+大矢英代監督)を観て

1944年の晩夏、大本営による遊撃部隊の編成命令を受け、「陸軍中野学校」で特殊なスパイ教育を受けたエリート青年将校たちが沖縄に渡った。少年を中心としたゲリラ部隊「護郷隊」を組織した。少年ゲリラ兵、軍命による強制移住とマラリア地獄、やがて始まるスパイ虐殺……戦後70年以上語られなかった陸軍中野学校の「秘密戦」。沖縄北部での「裏の戦争」を長期かつ緻密な取材で作上げられたドキュメンタリー映画。

今まで6月23日が沖縄の終戦だと思っていたが、その後の闘いがあることにも驚いた。しかもその作戦に動員されたのがまだ10代半ばの少年たちであること。次々と明らかになる当時の沖縄戦の全貌に心痛むが、是非、機会があれば見てほしい映画です。

三上監督は、「沖縄に寄り添う」だけでなく、国民一人ひとり、自分自身の問題と捉えてほしいと、「今」に警鐘を鳴らしている。(和)

■題名／沖縄スパイ戦史

■監督／三上智恵監督+大矢英代監督

■撮影／平田守

■2018年、日本、114分、戦争、沖縄、ドキュメンタリー  
第92回キネマ旬報ベスト・テン 文化映画ベスト・ワン  
第33回高崎映画祭 ホリゾン特賞

## 岡本健一郎さんの追悼

岡本さんのこと”

昨年 9 月末に亡くなった加古川シネマクラブ運営委員の岡本さんとお付き合いは、私が運営委員の仲間入りをしてからなので、12 年程になります。良くおしゃべりをするようになったのは、夏季映画大学や各映画イベントに私が参加出来るようになってからだと思います。本心は、もっと早くから映画大学等に参加したかったのですが、三人の子育て期と重なり、自分で不参加を選択していました。岡本さんのことで思い出すのは、約 5 年前の広島での映画大学です。二泊三日の映画大学の後に、特別枠で**高畑勲監督**と呉映画サークル有志との島巡りツアーに空きが一人あるということで、岡本さんかお誘いがありました。本来ならば飛びつくところ、受験生を二人抱えてた私は、二泊三日から三泊四日かあと悩み、返事を渋ってたところ、言葉こそ忘れましたが、こんなチャンス逃したらもったいないと背中を押され、結果、何とも得難い高畑勲監督、また、岡本さん、**呉映画サークル**有志と濃厚な一日を得ることが出来ました。今思えば、渋っていた私自身に呆れるところですが、岡本さんも呆れていただろうなあと思います。岡本さんごめんなさい。そしてありがとう。もっともっと、おしゃべりしたかったし、岡本さんが読んだ本も貸してもらいたかったです。泣き言で終えてはいけませんね。シネマクラブで私が出れる事をし、人生においては自分をかわいがります。もう一度、“岡本さんありがとう” (せん)

## 2019 年度定例総会開催お知らせが遅れています

加古川シネマクラブの定例総会は、例年 4 月下旬に開催しており、この時期に開催日と場所をお知らせしていました。2019 年度は、新天皇の即位に伴う連休のこともあり、まだ日程調整できていません。定例総会の日程と場所については、後日、お知らせいたします。

## 前回例会の報告

1 月 24 日の例会では、部族間でのトラブル解消のため、10 歳の娘を相手部族の長老と結婚することを決められた時、自分が 15 歳のときの経験したと重なり、逃亡する母娘を描いたパキスタン映画「娘よ」を鑑賞しました。加古川シネマクラブ設立以来 100 回目の例会でした。作品の評価も高く、嬉しいことに 13 人もの新入会員がありました。

参加会員 100 人、明石シネマクラブからの参加者 10 人で合計 110 人の参加者でした。

## 明石シネマクラブ例会情報

■名称／『ラッキー』(2016 年、アメリカ、100 分)

■解説／「パリ、テキサス」「ツイン・ピークス」で知られる個性派俳優で、2017 年 9 月に逝去したハリー・ディーン・スタントンの最後の主演作。「ファウンダー ハンバーガー帝国のヒミツ」などの名脇役**ジョン・キャロル・リンチ**が初メガホンをとり、**スタントン**に当て書きしたという 90 歳の気難しい現実主義者ラッキーを主人公に、全ての者に訪れる人生の最後の時間を描く。

神など信じずに生きてきた 90 歳の男ラッキー。ひとりで暮らす部屋で目を覚ますとコーヒーを飲んでタバコをふかし、なじみのバーで常連客たちと酒を飲む。そんなある日、自分に人生の終わりが近づいていることに気付いた彼は、「死」について思いを巡らせる。子どもの頃に怖かった暗闇、去っていったペットの亀、戦禍の中で微笑んだ日本人少女。小さな町の住人たちとの交流の中で、彼は「それ」を悟っていく。**スタントン**本人の体験に基づくエピソードが描かれるほか、長年にわたる**スタントン**の盟友**デビッド・リンチ**監督が主人公の友人役で登場。



■監督／ジョン・キャロル・リンチ

■出演／ハリー・ディーン・スタントン

■日時／4 月 11 日(木) ①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所／アスピア明石 9 階子午線ホール(JR 明石駅東徒歩 5 分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

## ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL [cinemaclub@nifty.com](mailto:cinemaclub@nifty.com)

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 138 人(1 月 24 日現在)